



Title	『社会教育研究』（『社会教育研究室報』改題）の刊行にあたって
Author(s)	山田, 定市
Citation	社会教育研究, 4, 1-1
Issue Date	1982-07
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/28421
Type	bulletin (other)
File Information	4_P1.pdf



[Instructions for use](#)

『社会教育研究』（『社会教育研究室報』 改題）の刊行にあたって

教育科学、とりわけ社会教育の研究は実践現場との交流なしにはなり立ちえない。たえず実践に学び、そこから提起される課題をみずからの研究課題として受けとめ科学的に解明する、という態度が教育科学の学徒にはたゆみなく求められている。このような見地から当研究室で『社会教育研究室報』を独自に刊行したのは、1975年であった。当時の研究室の担任教授、美土路達雄先生（現名寄女子短期大学長）のご指導のもとに実現したのであった。いらい3度にわたって『室報』を刊行してきたが、最近、研究室として別の形での研究成果の公刊に時間を割いてきたこともあって、『室報』は1977年以後は刊行されないまま現在にいたっている。

今回、数年ぶりで当研究室の編集になる研究誌を続刊する運びとなったわけであるが、その際、この名称を従来の『社会教育研究室報』から『社会教育研究』と改題したことについては私たちの少なからぬ思いがこめられている。それは、ひとつには研究誌を研究室の部内誌にとどめることなく、ひろく社会教育関係者の研究交流、切磋琢磨の場にしたいという期待をこめてのことであり、いまひとつには、そうした交流の拡がりのなかにあっても、なお研究誌としての内容・水準を保ち、引き上げていく努力を続けたいと願っているからにほかならない。

折りしも社会教育に対する関心はいっそう高まり拡がりつつある。「高度成長」下で編成されてきた社会教育は、臨調・「行革」路線が現実化する中であらためて大きな試練に直面している。国民一人ひとりの学習権に基礎を置き地域に根ざした社会教育をいかに創造・発展させるか、これは社会教育を学び実践する者にとってはひとときといえどもゆるがせにできない課題である。

この研究誌が、そうした現実感覚を大切に、稚拙をおそれない大胆な問題提起とそれをめぐる活発な討論の場となること、そしてそれが契機となってより精緻で体系だった研究が成就し、社会教育活動にいささかでも寄与することができれば刊行の目的のひとつはかなえられることになる。そのような思いで、私たちはこの研究誌を育てていきたいと考えている。本誌に対する大方の忌憚のないご批判とご協力を心からお願いする次第である。

1982年7月

北海道大学教育学部

社会教育研究室

教授 山田 定市